住み慣れた地域で
安心して暮らしていけるように

認知症
コラム

【第19弾】
認知症おたずねコーナー
～Part 3～

身近な疑問や困りごとにお答えします

こんにちは、認知症地域支援推進員です。この「認知症おたずねコーナー」では、認知症に関する身近な話題を基に、質疑応答形式でご紹介します。

認知症を正しく知ることは、ご本人やご家族だけでなく、認知症の方にかかわる皆さんの安心につながります。日々のかかわりのヒントとして、ぜひご覧ください。

Q 認知症の母に「お風呂に入ろう」「着替えよう」と声をかけても、いつも「嫌！」と言われます。何度言っても拒否されると、つい「どうして言うことを聞いてくれないの？」とイライラしてしまいます。どうしたらいいのでしょうか？

A. 急かすのではなく、少し時間を置いたり声をかける人を変えてみましょう。



何度声をかけても「嫌！」と言われると、介護する側も困ってしまいますよね。「本人のために言っているのに…」と、ついイライラしてしまうこともあると思います。認知症の方が**断られる**とき、単に「わがままを言っている」というわけではありません。何をするのか分からなかったり、面倒に感じたり、体調がすぐれなかったり、恥ずかしさや不安を感じているのかもしれません。

介護する側も毎日の生活の中で「どうしてできないの？」と悩み、疲れてしまうことがあります。大切なのは、すべてを一度でうまく進めようとしないこと。うまくいかない日があっても、自分を責めすぎないでくださいね。

今回のポイント

うまくいかない日もある。
「どうして？」と悩む日もある。
それでも、今日も声をかけた。
今日もそばにいた。
その積み重ねが、きっと大切な支えになっています。

むすびのポエム

もよいでしょう。

それでも、**本人意思で断られるときには**、無理に進めず、時間を置いてからもう一度声をかけてみるのもよいでしょう。声をかける人を変えたり、言い方を変えたりすることで、すんなり受け入れてくれることもあります。

問　地域包括支援センター（福祉課内）☎43-9021

コラム「与謝野の風」
— 第6話

皆さんのお役に立つ場所「役場」



与謝野町長
佐賀 利裕

町長に就任して半年が経ちました。この間、前町政からの継続事業予算の補正や前年度決算を議会でご承認いただき、現在、来年度からの新しい取り組みに向けた最終準備段階に入っています。

その一つが「窓口改革」です。最終的にはどの庁舎でも同じ行政サービスが受けられるようにしたいのですが、その第1ステップとして「窓口対応の改善」を行います。役場を訪れる皆さんのご負担を軽くするために、どの窓口に行けばよいのかをわりやすくするとともに、窓口での書類記入を減らしたいと考えています。もちろん、その前提になるのが私たち職員の意識改革です。ご相談にお越しになられた方に明るくお声がけをし、しっかりとお話しを聞き、皆さんのお役に立つことを仕事の目的とした窓口業務を心がけます。

また、開庁時間を短縮し、できた時間で職員間の情報連携を行い、充実した対応ができるようにします。12月から試行期間を設け、問題がなければ来年4月から正式に実施したいと考えています。

皆さんのお役に立てるよう、一つひとつ取り組んでまいりますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



まちの話題ワイド

●第36回丹後ブロック中学校駅伝競走大会

橋立中が男女ともにV
— 町内の3中学校が11月の京都府大会出場へ —

10/17

丹後地域の中学校が一堂に会し、仲間とたすきをつなぎゴールを目指す「第36回丹後ブロック中学校駅伝競走大会」が、峰山総合公園で開催されました。

本大会には、丹後2市2町から12校（女子は11校）が出場。女子は序盤から加悦中と橋立中がレースを引っ張る展開となり、中盤、2位以下を突き放した橋立中が優勝。見事3連覇を達成しました。選手たちはコース沿いからの大きな声援を力に、日々の練習で培った力とチームワークで、懸命にたすきをつなぎました。

なお、本大会で男女ともに上位6校が、11月7日に開催される京都府大会に出場します。



ゴールを目指す加悦中のアンカー



①勢いよくスタートする女子のランナーたち
②峰山中を抜き先頭に立つ橋立中のランナー（右）
③力走する江陽中のランナー